各事業本部 社員座談会

個性をつないで、もっともっとよい会社になろう

所属部署の垣根を越えて個性的なメンバーが「あやべ・日東精工アリーナ」に集い、座談会を開催。
それぞれの立場や視点から自らの課題や目標などを語り合い、意見交換をしました。

わたしにとっての日東精工「我らの信条」の「よい」とは何か

荒賀▶ここには入社年も、所属や職種も違う皆さんにお集まりいただきました。皆さんにとって日東精工という会社はどんな会社ですか。

福島▶私は学生時代に野球をしていまして、チームの監督から「日東精工は良い会社だ」と勧められて興味を持ちました。私は製造課で流量計の組立・検査業務をしていますが、モノづくりの基盤は「人」にあると思います。よい人から、よい製品がうまれるということを体現した会社だと思っています。

奥田▶私は派遣社員から正社員になり、今はファスナー事業本部の管理課で係長をしています。日東精工に入社してまず驚いたのは、経営理念である「我らの信条」が本当に末端の社員まで、語句一つひとつを理解し、仕事にどう落とし込むかと考え実践しているところでした。これは本当にすごいことだと思います。

金▶私もキャリア採用で入社しました。現在は産機事業本部で設計をしています。日東精工が持っているねじ締め機を中心とした産業用機械やロボットの技術は素晴らしいですね。少しハードルの高い仕事もチャレンジさせてくれる風土があり、もちろん失敗もしますが（笑）、上司が的確にフォローしてくれるので恐れずにチャレンジできる環境だと思っています。

堀▶経営戦略本部経営企画課で主には経営資料の作成をしたり、最近では広報業務も携わっています。日東精工の課題は「知名度」ではないかと思っています。業種自体が縁の下の力持ち的な役割ですが、「業界で有名」というだけではなく、「誰もが知っている日東精工」にしたいです。

荒賀▶福島さんや奥田さんが言われるように、日東精工の経営理念には「よい自己、よい仕事、よい貢献」とあります。

「よい」という言葉には「同時追及しにくいものを、同時追及すること」と『我らの道※』では解説していますね。相反することを同時に追求することこそプロフェッショナルであり、「よい」に通じるものだということです。例えば「丁寧と迅速」「優しさと厳しさ」などですね。

※『我らの道』：日東精工の社是（＝経営理念）を社員用に解説した読本

堀▶「よい」という言葉は、その曖昧さにこそ価値があるのだと思っています。明確な状態の規定がないことで、自己にも仕事にも貢献にも上限やゴールがなく、どこまでも高めていけるものだという意味が込められているのではと、私は解釈しています。

私の活躍で日東精工グループを世界中で認められ求められる会社に

荒賀▶日東精工は2028年「世界中で認められ求められる『モノづくりソリューショングループ』を目指す」という長期ビジョンを掲げています。
皆さんは2028年、自分はどうありたいと考えていますか。

福島▶私は所属する制御システム事業本部の製品をもっと広めたい、もっとお客さまに知ってもらいたいと思っています。私は製造職としてお客さまの工場に自社製品を据え付けに行くことも多く、やはり自社製品がお客さまのモノづくり現場で良い仕事をしていると嬉しいです。自身の知見、経験を深めて日東精工の製品をお客さまにもっと知っていただきたいというのが私のビジョンです。

奥田▶ファスナー事業本部全体のDX化を進めていくことです。そのためには、購買、技術、製造、販売、品質、出荷まで、ファスナー事業本部のものづくり工程をすべて把握し、構想を練らなければなりません。各部門の日々の業務内容やその進捗を考慮しつつ、支障がでないように随時切り替えを行っていきたいと思います。

金▶私は中国から来日してから12年なります。日本で技術者として産業用機械に携わって社会に貢献することはもちろんのこと、後輩育成にも積極的に携わっていきたいと考えています。目指しているのは「モノづくり」と「人づくり」の二刀流です。
またグローバルに活躍できる技術者というのも目標の一つでありますが、今はまだ経験を積んで、しっかりとした技術力を身に付けることを前提に頑張りたいと考えています。

堀▶立場的にはマネジメント層を目指したいと思っています。そのために上司の思考や行動を吸収している真っ最中です。

エンゲージメント向上。わたしの強みを仕事に活かす

荒賀▶エンゲージメント向上には、個人の強み、独自の発揮を仕事の中で実現できるかということが大切だと思うのですが、皆さんは自分自身の強み、独自性についてどのように考えていますか。

奥田▶情報収集とそれをどのように仕事にフィードバックして結びつけるかを常に考えています。電子書籍やインターネットなどからIT関係の説明書やマニュアルを探し出しては読み漁っています。とにかく知識や情報を習得することに苦痛を感じないところが強みかなと思います。

堀▶経営資料や戦略会議資料を作成する機会が多いためか、「見やすい」「分かりやすい」「使いやすい」資料を作成するセンスが磨かれてきたかな（笑）と思っています。

荒賀▶最近では広告関係の業務も堀さんにお願いすることもありますが、素晴らしい感性だと思っていますよ。

福島▶私は製造業なのですが、真似ることが得意です。小さい頃から野球をやっていたこともあってボールの投げ方、打ち方などのお手本となるフォームを真似て、繰り返すことで自分のフォームにしてきた経験があります。製造現場においても新しい技術を教えてもらう時に、「取りあえず、やって見せてください」というふうにまずは全体の流れや動きを見せてもらって覚えるのが得意かもしれません。

金▶チャレンジすることを大切にしているところです。ハードルの高い仕事でも、失敗を恐れずに取り組むことができるのは私の強みかと思います。荒賀社長の強みは何ですか。

荒賀▶フットワークの軽さと初動の速さは持ち味かなと思います。あとは基本的にポジティブに物事を考えることができることでしょうか。「人間万事塞翁が馬」という言葉が好きで、たとえ失敗しても結果的に良いことに結び付くように考えて行動すればいいと思っています。

一人ひとりが考え、行動する。社会貢献活動

荒賀▶ここ「あやべ・日東精工アリーナ」は2019年にオープンした施設で競技場、武道場、研修室や会議室など、綾部市の市民センターとしての役割と市民のランドマークとしての建物になっています。日東精工はネーミングライツという形で貢献をさせていただいています。
皆さんの考える社会貢献とはどんなものでしょうか。

堀▶「よい貢献をする」という一説も「我らの信条」にありますね。
私は綾部市商工会議所の青年部に所属していて、綾部市の商工業を若者の力で活性化する取り組みを行っています。私の小さな野望は「ねじの町、綾部」の実現です。産業と町おこしを結び付けたいと考えています。

福島▶日東精工は野球や卓球、バスケットボール、陸上などいろいろな部活動が盛んで、私も野球部に所属しています。以前に部員が中学校や小学校の野球チームのコーチとして指導していたという話を聞いて、またやってみたいなと考えています。
昨年、日東精工が「あやべ・日東精工スタジアム（ネーミングライツ）」に元阪神の井川選手をお招きして野球教室を開いた際の子供たちの楽しそうな笑顔も心に残っていますね。

奥田▶私は海外に住んでいた経験もあって、外国人の方に日本語を教えるボランティアをしていたことがあります。あと、堀さんの「ねじの町、綾部」の話を聞いて思い出したことがあります。私は学芸員の資格を持っていまして、大学時代に教授から「企業で勤務するなら、博物館を自分で立ち上げて、学芸員としてサポートすることもできる」と言われたことがあります。ねじや締結の博物館ができるといいですね。

金▶以前、恵まれない子どもたちと一緒にゲームやスポーツなどを楽しむイベントに参加していました。外国人の私にとても興味をもって接してくれたことを思い出します。

荒賀▶それぞれ色々なアイディアがありますね。大きな貢献は小さな貢献から始まります。企業として、また個人の活動として、何ができるのかを考え、そして行動していきましょう。

日東精工では個性を尊重し、また自らの強みを活かして、多様な人財が活躍できる組織風土の醸成に努めています。また従業員のエンゲージメント向上のための教育やイベント、社会貢献活動などを通じ組織の活性化を図っています。